

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい項目 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員でこれまでの理念の見直しを行い、明確にしている。	○	これからも地域や利用者のニーズに合ったものを作って行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具体化に向けて職員全員で、行動指針「みんなで必ず守ること」を作成し実践している。また新人研修などでは、文章化された方針を提示し職員教育を行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には、今まで暮らしてきた環境や関わりの大切さを話し、入居前の生活が継続できるよう取り組んでいる。また運営推進会議のメンバーに利用者の暮らしぶりを知ってもらうよう、各行事に参加してもらっている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物に出かけ、挨拶をしたり馴染みになった近隣の方とは気軽に話をする機会がある。徐々に馴染みの関係が増えてきている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭り、井手ざらえなどに参加している。また、地域活動をしているボランティアの方が随時訪問してくれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人職員が認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトに登録し、認知症の理解のため活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目標を知り全職員で評価をしている。外部評価はミーティングで報告し各ユニット改善計画を立て、改善への具体案の検討、実践に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを見てもらえるよう遠足・家族会・餅つき大会などの行事の参加や防災訓練の様子を見学してもらい、より理解や意見をもらい次回に繋げている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市包括支援センターが開催する連絡会に出席し、情報収集や情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について職員が理解できるよう勉強会をしている。これからも機会をとらえ学習していくと共に必要に応じて活用できるよう支援していききたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時、ニュースなどの高齢者虐待報道をふまえ、理解を深め虐待がないよう努めている。また一人ひとりが精神的なストレスを抱き続けたくない一人ですべてを抱え込まない、また自らを追い込まないよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ケアに関する考え方や取り組み、退所を含めた事業所の対応可能な範囲について説明している。解約の場合、家族には十分な説明と今後の行き先について話し合い、理解、納得してもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から真の思いを察する努力をし、リーダー会で取り上げ話し合いをしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話などで利用者の近況報告をすると共に状態変化が見られた時は細かく報告するよう努めている。暮らしぶりについては写真などでも分かるようにしている。金銭については出納簿にて随時確認してもらい、必要に応じコピーし手渡している。そのほか家族会を利用し報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見ポストを設置、公的申立機関に苦情申立先があることを契約書を結ぶときに話している。些細な意見も真摯に受け止め、解決方法・対応策をリーダー会にて検討し職員に周知している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダーが聴き、リーダー会に取り上げるようにしている。またリーダーは日頃からコミュニケーションを図れるよう心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出など状況にあったシフトを組んでおり、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。職員の病気など急な休みにも対応できるよう人員の確保に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニット職員は固定化し、馴染みの関係が継続できるように心がけている。新しい職員が入る場合は必ず利用者で紹介をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修・講演後はその内容をミーティングの場で発表してもらっている。また研修を受けた職員が講師役となり勉強会を行い、当施設で出来ることは実践している。報告書は全員が閲覧できいつでも確認できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム事業所との意見、情報交換は電話や訪問時に行っている。相互評価事業に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>雇用管理面では介護能力の向上に向けた研修、認知症理解を深める研修に行ったり、緊急時対応体制の整備、勤務体制の際要望を聞くなどしている。またリーダーは悩みの聞き役となりストレスをためない支援をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>頻回に現場に顔を出し利用者やと過ごしたり、職員の業務状況を把握している。もてる力を活かせるよう支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の困りごと、何を求めているかなど聴き取ったり、本人の話したいことを受け止め理解しようと努めている。また施設見学をし施設の雰囲気を感じ取ってもらい少しでも不安の解消に結びつくよう心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの話をよく聴き、求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか話している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況、思いなどを確認し専門医への受診アドバイスや介護サービスのみでなく、医療を含め他にも利用できるサービスの説明や連絡などを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接から入居までの期間が短く暫定の介護計画作成はしているが、利用者の状況や反応、家族との話し合いから入居1カ月後見直しを行い利用者にあったサービスになるようにしている。また入居日には家族に宿泊いただき安心できるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、利用者から教えてもらう場面を多くもてるよう工夫や声掛けに配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事を訪問時や電話などで伝え、家族と同じような思いで支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来所時にはご本人の状況をこまめに報告し、急を要する場合には電話連絡をしている。遠方の家族には手紙・電話などで連絡を取って頂けるよう依頼している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のコミュニケーションの中で利用者の生活暦を知り、馴染みの場所や人間関係を把握し関わりの継続が出来るよう働きかけている。	○	外出の機会を増やす。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	心身の状況や気分に変化する利用者を注意深く見守り、孤立しないよう配慮している。利用者同士が支えあう場面が見られるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体的な都合で当事業所を利用できなくなった方には次の利用施設へ面会や見舞いに行くようにしている。また利用施設の相談員を通じて情報を得るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が困難な方の場合は、家族や介護者が本人本位の視点に立ち考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係者と馴染みの関係を深めプライバシーに配慮しながら、情報の蓄積に努め本人の全体像を知る取り組みをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握、理解に努め、もてる力を十分に発揮できるように職員間で話し合う機会を持つようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の考え方、職員の気づき・アイデア、家族の意向・アイデアを反映し、個別の介護計画作成に努めている。本人に生の声を聴くことが大切であることを話し反映できるよう取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをするとともに、現状に即していないと思われる場合、また本人・家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表にてバイタル・食事量・排泄など身体的状況を記入し個人記録にはサービス内容のチェックと職員の気づきや利用者の状態変化を記入して情報の共有をしている。これらを基に介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診や理容訪問があり希望者は利用できる。状況に応じて、通院介助や外出支援などを行っている。その他医療連携体制を活かし医療処置を受けながら、生活の継続と健康チェック・アドバイスなどにより個々の安心に繋がるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員が敬老会祝いに訪問してくれ近況報告する事がある。警察・消防・タクシー会社などの資源を活用し安心・安全に生活できるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向に応じ、理美容サービスや介護タクシーなど介護保険以外のサービス事業者と連携し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居しているので施設と考えるため、今は相談例はないが、同法人の居宅支援事業所が窓口となり、何かあれば相談できる体制である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時あらかじめ家族と受診病院について話をしている。希望するかかりつけ医を継続してもらっている。新たに受診の必要のある場合は家族と相談して決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない声掛けや口調・態度に気をつけ対応するように努めている。個人情報については、電話での問い合わせ、来訪者に本人のプライバシーに関する事など話さないようにしている。	○	プライバシーに配慮した声掛け・態度については、職員同士が話し合うことが出来たり、自分の態度を振り返ることが出来るような機会が常に持てるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	複数の選択肢を提案し、利用者に合わせて声掛けしている。意思表示の難しい方には表情を読み取り本人の決める場面作りをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を表示しているが、一人ひとりの体調やその方の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人が決めており、必要に応じて手伝っている。自己決定しにくい方は、表情を読み取り気持ちに添った支援を心掛けている。家族の協力により、本人希望の美容院に行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等も利用者と共にを行い、利用者と職員が同じテーブルを囲み楽しく会話をしながら食事している。 散歩の帰りに畑に寄り、自家菜園の野菜を収穫し、一緒に調理を行い、メニューに加えている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーの好きな方には、朝のモーニングコーヒーを提供している。便秘症の方で在宅で宅配飲料を飲んでいた方は、家族の協力により継続出来ている。また栄養ドリンクや果物についても家族に伝えると快く届けてくれる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は子機を利用し、他者を気にすることなく会話できるよう支援している。また、年賀状を出すよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけでなく友人・知人の来所にも自然な形で歓迎している。意思の疎通の困難な方には、さり気なく職員が間に入り対応している。来客名簿を記入してもらい家族の方にも連絡すると共に継続して来所していただけるよう働きかけている。可能な限り知人の方にも面会していただけるよう家族に依頼している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に月1回のミーティングの中で勉強会を継続的に行い、身体拘束についての理解を深め拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠しており自由に入出りができる。外に出る可能性があることを知り、一人ひとりがどこにいるか把握すると共に一人で出かける方には呼び止めずそっと見守りをするように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に誰かがリビングを見渡せるよう心がけ、本人のプライバシーや安全に配慮している。夜間はこまめに巡回を行い、トイレ・起床時にはすぐ対応できる場所で待機している。一人になりたい時のスペースが設けられるように、利用者の心身の状態を把握しリビングの配置を検討している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	いつでも必要なときに使用できるよう包丁・洗剤などは所定の場所に置いてある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりどのようなリスクがあるか話し合い、知識を学んだり対応への工夫をし事故防止に努めている。またヒヤリハット報告書、事故報告書を作成しリスクカンファレンスの開催やケアプランに反映するなどその都度検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の不安を取り除きスムーズな対応が行なえるよう年間計画を立て定期的に行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震、防水害マニュアルは作成している。特に火災避難訓練に力を入れ、それを基にマニュアルの変更を行う。また、消火器を用いて指導してもらっている。	○	災害での協力は得た事がないが、あいさつ・行儀等で施設の認知度は高くなっていると思われるので、これからも働きかけを継続して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりについて把握しており、リスクの高い場合は家族に対応策を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子があれば、バイタルサインのチェックや記録を残し、申し送りで伝えることで職員がいつも以上に注意をして状態を観られるようにしている。気になる症状であれば医師に相談して指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については個人記録に記入し内服内容はいつも目にする薬箱表に貼り確認している。変化は個人記録に残し、医師に伝えている。内服の変更があれば申し送りノートを活用し全員に周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品を取り入れ料理の工夫をしたり、散歩や体操・家事活動などで体を動かし自然排便ができるように努めている。緩下剤を使用する場合でも医師に相談しながら個々に合うものや量の調節をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きでは、状態に応じて見守りや介助を行っている。義歯着用者には夜間の義歯洗浄を行っている。毎回職員がチェックする事で、異変の早期発見や義歯調節依頼により食事量がアップするなど効果が見られている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>チェック表から食事量や排尿回数を見る事で栄養のバランスや水分摂取状態を把握している。また夜間の配茶や訴えない方には、水分記録すると共に目標量を接種できるよう努めている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成している。季節的に情報収集をして早期発見・予防に努めている。またその都度個々の状態に合わせた対応をしたりインフルエンザについては利用者・職員共に予防接種を受けている。朝礼で注意を促したり勉強会を繰り返し行い予防に努めている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板やふきんなどは毎日消毒し、調理器具・冷蔵庫・台所周りとはこまめに掃除をしたり熱・アルコール消毒を行い衛生管理に努めている。食材については先入れ先出し、生ものは新鮮で安全なものを求めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関前に花壇があり、季節の草花が楽しめる。またベンチを設置することで外気浴をしながら団欒の場となっている。靴の脱ぎ履きがしやすいようにイスを設置している。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族より頂いた花を生けたり季節を感じる装飾品を古布を使って作ったりその時々季節をじかに感じてもらえるようにしている。また日差しの強いところには簾や布をはり心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳やソファを分離して設置している事で居心地の良い空間作りができ利用者同士でくつろいでいる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや鏡台など生活のスタイルに合わせて用意できるよう本人や家族と相談しながら環境作りを行っている。また、仏壇・写真など大切なものを持ってきていただき安心して過ごせるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除や食後に換気を行ったり、利用者の発汗や冷えなどの状態を見ながら空調の調節を行っている。また、扇風機をつけ空気の循環をさせている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している	利用者の身体機能に合わせ食卓イスにひじ付きを利用したり、老人車を使用していただく事で自主性に繋げている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって何がわからないのか、どうすれば分かるのか常に職員間で話し合っている。お茶碗や箸を同じにせず柄や色で自分の物と認識できるよう工夫している。洗濯物に記名をしたたむ時区別している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に花壇があり、季節の草花が楽しめ、ベンチを設置し外気浴をしながら会話を楽しめるようにしている。畑にも四季折々の花や野菜を植えて外に出る機会を増やし、収穫の喜びを実感出来るよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

得意な分野を知り役割・楽しみごと・気晴らしなど一人ひとりの思いを大切に個別支援を実践している。一人ひとりのペースを大切に暮らしてもらっている。